



## 来賓挨拶

前特許庁長官  
中嶋 誠

皆様こんばんは、中嶋でございます。本日は特技懇懇親会にお招きいただき、ありがとうございます。まずは御礼でございますが、長らく特許庁にお勤めいただき、退官された皆様、今まで本当にありがとうございました。心から御礼を申し上げます。それから新しく特許庁にお入りになられた皆様には大きなグループの中に新しく入られたということで、心から歓迎いたします。

また、本日は大勢の先輩の方々がいらっしゃいますが、最近特許庁が海外で様々なことができているのも、本日はらっしゃる諸先輩方、あるいは関係団体の皆様方のおかげでございます。この席をお借りし、あらためて御礼申し上げます。

特許制度というのは大変歴史のある大きな制度であります。そして特許庁という組織も大変大きな組織であります。ただ、これは決して完成されたものではありません。当たり前ですが、現代的な特許制度ができてから日本ではまだ120年程しか経っておりません。そ

の間にも相当大きな変化を遂げております。まして21世紀に入り、今までと同じような制度、運用、仕事の仕方でのよいのかということもあり、国の内外で相当な変化が求められていると日々実感しています。

したがって、現役の方にもOBの方にもご理解いただきたいのは、特許庁というのはもちろん特許の審査をする場ではありますが、同時に制度を自ら企画・立案してつくっていくものだと思います。それが日本および世界の制度をつくる役割を担うことだと思います。そういう意味で、特許制度も特許庁という組織も、先輩からの引き継ぎを受けて日々自らつくり出そうという気持ちで、これからも皆さんと一緒にがんばりたいと思います。

2番目に、今、公務員制度についていろいろなことが言われていますが、私どもの仕事というのは、出願人の方の目線に立って少しでもよい制度をつくっていくことです。もちろん歴史的な認識も必要ですが、ユーザーの方々の目線に立って仕事をすることが大切です。

最後に、社会全体の動きが速いため、遅れをとらないようにスピーディに仕事をしていくこと。以上3点でございます。

私ども現役もがんばっていきたく思いますし、OBの皆様にも民間からの視点でいろいろとアドバイスをいただきたいと思えます。

今日は特技懇の会にお招きいただき、本当にありがとうございました。特技懇の益々のご発展と皆様の一層のご活躍を祈念し、ご挨拶に代えさせていただきます。皆様と一緒に特許庁をさらに立派なものにしていきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

